日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼編集人　中原　泉
発行日　偶数月末日
定　価　1部10円
編集室　〒951-8580
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025（267）1500

本学のシンボルマーク

東京　多摩クリニック竣工

秋晴れの東小金井で竣工式行う

本学では本年一月から、JR中央線の東小金井駅前に口腔リハビリテーションセンター多摩クリニックの建設工事を進めてきたが、今秋に完工して竣工式を挙行した。

多摩クリニックの竣工式は、本学ならびに工事関係者が参列し、秋晴れの九月十二日午前十一時から執り行われた。

三階カンファレンス室に祭壇が設けられ、関野天神社宮司が斎主となり神事が進められた。祝詞ではわが国初の口腔リハビリ施設が落成したことが奏上された。施主の中原泉理事長・学長、設計者の小林眞人建築研究所長、施工者の鹿島建設の永田賢了常務執行役員が玉串を奉奠し、工事期間中、無事故で予定通りに竣工したことに感謝を捧げた。ここで参列者一同が神酒を拝戴し、神事をおえた。

神職退出のあと暫時、各階をめぐり施設を見学。正午から同じ三階のカンファレンス室で直会が行われた。

中原学長・理事長が「この東小金井の校地は、今から八十五年前の昭和三年に当時の日本歯科医学専門学校がグラウンド用地として購入した。戦後、向かい側の敷地内に男子学生寮が建設され、多くの先生方が青春時代を過ごしている。つい最近まで、この場所に女子教職員寮が建っていた。この交通至便の地に、多摩クリニックという口腔リハビリテーションに特化した診療施設を建設できたことは感に堪えない、先人に深く感謝したい」と述べた。つぎに設計者、施工者が挨拶し、住友雅人生命歯学部長の発声により乾杯した。

おわりに羽村章附属病院長のリードで、「秀嶺富士の…」にはじまる日本歯科大学寮歌を熱唱した。

多摩クリニックの竣工式の神事に参列した関係者たち

中原理事長から、工事関係者に感謝の言葉が述べられた

25回目の交換学生（上・東京　下・新潟）

辞令

歯学博士　前田　徹
名誉教授の称号を授与する
講　師　矢島　愛治
口腔リハビリテーションセンター併任を命ずる
いびき・睡眠時無呼吸診療センター併任を命ずる（生命歯学部内科学講座）
客員教授　岡部　貞夫
口腔がん診療センター長併任を命ずる（附属病院歯科口腔外科）
助　教　我妻　由梨
顎関節症診療センター併任を命ずる（附属病院総合診療科1）
助　教　井上　修輔
顎関節症診療センター併任を命ずる（附属病院総合診療科3）
助　教　佐藤奈保子
インプラント診療センター併任を命ずる
ハイリスク診療センター併任を命ずる（附属病院総合診療科4）
助　教　岩崎由香利
顎変形症診療センター併任を命ずる（附属病院矯正歯科）
助　教　片岡　彩乃
顎関節症診療センター併任を命ずる（附属病院矯正歯科）
助　教　土持　航
顎変形症診療センター併任を命ずる
助　教　小谷田貴之
口腔がん診療センター併任を命ずる（附属病院歯科麻酔・全身管理科）
助　教　三井　陽介
ハイリスク診療センター併任を命ずる（附属病院歯科麻酔・全身管理科）
助　教　高橋　賢晃
口腔リハビリテーションセンター併任を命ずる（附属病院口腔リハビリテーション科）
松木るり子
助教として採用する（附属病院口腔リハビリテーション科）
口腔リハビリテーションセンターに併任を命ずる
平成二十四年五月一日
歯学博士　土川　幸三
名誉教授の称号を授与する
平成二十四年六月二十一日
教　授　千葉　晃
農学博士
新潟生命歯学部図書館長併任を命ずる（生物学）
略歴・昭和45年3月新潟大学理学部生物学科卒業、47年3月同大学院理学研究科修了。同年4月本学新潟歯学部生物学助手、52年4月講師、58年4月助教授、62年4月新潟短期大学教授を経て平成元年4月教授に就任。平成11年4月学生部長併任。
豊村　順子
助教として採用する（生命歯学部（寄附講座）NDU生命科学講座）
平成二十四年八月一日
理学博士　佐々木直幸
医学博士　柴崎　浩一
名誉教授の称号を授与する
教　授　曽我　憲二
医学博士
医科病院内科科長に任命する
医療職員　中栄　正隆
医学博士
医科病院中央検査科科長に任命する
平成二十四年九月一日
本　学

群馬パース大学教授に浅見知市郎先生

本学七十六回卒の浅見知市郎先生（群馬県前橋市）は、四月一日付で群馬パース大学（保健科学部、看護学部）教授に就任した。

川上大学院生三年連続のポスター賞

大学院新潟生命歯学研究科口腔全身関連治療学の川上未有希大学院生は、第五十七回日本口腔外科学会において同学会ポスター賞を受賞した。川上院生は、三年連続してポスター賞を受賞した。発表演題は「頬脂肪体由来間葉系幹細胞を用いた唾液腺細胞への分化誘導に関する検討」

多摩クリニック2階テラスよりグラウンドを臨む

第25回 姉妹校交換学生

派遣と受入れ 総計三五二名に

国際交流の啓発を目的として一九八六年（昭和六十一年）に始まった本学の交換学生制度は、今年で二十五回目となる。毎年春に本学両学部の学生が、姉妹校のカナダ・ブリティシュコロンビア大学（UBC）とアメリカ・シアトルのワシントン大学（UW）を訪問し、夏にUBCからの訪問を受け入れ、学生たちが相互に研修と親睦を図る本学独自の教育システムである。

本学の一行は、三月十日に両学部の五年生六名と同行教員一名の合計七名が、ブリティシュ・コロンビア大学（UBC）とワシントン大学（UW）に向けて成田を発った。日付変更線の関係で、出発した日の出発時間よりも早い時間にバンクーバー経由でシアトル・タコマ空港に到着した。

時差が解消した十二日の月曜日に、全米屈指の歯学部と医学部を有するワシントン大学歯学部を訪問した。日本歯科大学一行として今回はじめてお目にかかるJoel Berg歯学部長は薬学部出身の研究者で、貴重な時間を割いて面会していただいた。その後、学部長秘書に広大な歯学部の代表的な場所を案内してもらった。

翌十三日にシアトル・タコマ空港から空路、バンクーバー市に向かう。空港には六名のUBC学生と同行教員のRemocker先生、そして、長年にわたり本交換プログラムを遂行する上でのUBC側のドライビング・フォースであるRavindra Shah教授の八名に温かく出迎えていただいた。Geoff Remocker先生は英国グラスゴー大学歯学部の出身で、非常勤として週二回病院での臨床指導で学生に接している。UBC学生六名のうち、カナダ生まれは一名のみで、ほかは高校、大学、歯科医ライセンス習得後などのさまざまな時期にカナダに住むようになっている。日本側の七名は一人づつカナダのバディの家にホームステイした。ほとんどの学生の宿舎は、歯学部から数分の徒歩圏内にあった。大学内での活動の予定はShah教授が立案し、それ以外のアクティビティについては、UBC学生の意見をリーダーがまとめる方向で、臨機応変に心配りのあるもてなしを受けた。

UBCのCharles Shuler歯学部長とは、言葉に慣れた三日目の早朝、朝食をとりながら我々七名と親しくお話をすることができた。また学部長主催の夕食会では、交換学生プログラム二十五回目を記念する楯が本学よりUBCに寄贈された。

本学学生はさらに小グループに分かれ、診療室内で学生の学習を見学したり、歯学部の種々の施設を見学した。その間、同行教員は、たまたまUBCを訪れていた広島大学の高田隆歯学部長らとともに、医学部との合同授業や一年生対象のPBLなどを体験した。

同行教員の波多野は一九八九年にUBCとミシガン大学への同行教員を務めた。同じ年にUBCの学生に同行し、その後、サバティカルの折に新潟歯学部に滞在された小児歯科学のAran Richardson名誉教授との再会を楽しみにしていた。幸いフェアウエルパーティーで、お元気な姿と再会することができた。e-mailなど存在しなかった二十三年前には、到着当初の数日は、ホームステイ先のRichardson教授のお宅から、毎日のようにファックスで報告文を日本に送ったことが走馬灯のように頭を巡った。

三月二十四日、UBCの学生たちの見送りを受け、夏の再会を約してバンクーバーをあとにした。真夏の七月二十三日、UBCの学生六名と同行教員Remocker先生は、成田空港に到着。三十日までの八日間を東京で過ごした。東京では二十四日の本館案内にはじまり、昼の附属病院での歓迎セレモニー、そして学部長主催の昼食会を幕開けに、歯科医学と日本の文化についても研鑽してもらった。

箱根観光の後、三十日には新潟に移動し、八月六日まで新潟病院や医の博物館、先端研究センター、ITセンターなど学内施設を見学。新潟県内の観光や花火大会を楽しみ、市民神輿や民謡流しを体験した。七日に成田から帰国した。

姉妹校交換学生制度、二十六年二十五回の歴史は、初回の交換留学時に二十四歳であった学生はすでに五十歳の完成した歯科医師となっているほどのタイムスパンである。四半世紀にわたって一つの事業が継続される裏には、NDU・UBC両大学首脳の並々ならぬ努力があったものと理解できよう。このプログラムが二十五回目を契機にさらに両大学、両国の歯科学生にとって有意義なものとなることを祈って止まない。

（同行教員　波多野泰夫）

交換学生

二〇一二年度姉妹校交換学生は次の通り。

（日本歯科大学）

生命歯学部　五十嵐正樹
　　藤田　千紘
　　横井　希

新潟生命歯学部
　　内沼　茂樹
　　加羽澤紗花
　　根津　新

（ブリティシュ・コロンビア大学）

Mr.Daniel Berant
Mr.Payam Eslami
Mr.Ahmed Tarik Hieawy
Mr.Nima Salimipour
Ms.Ji Won Choi
Ms.Ruby Lai

（同行教員）

波多野泰夫（生命歯学部歯科補綴学第二講座准教授）
Dr.Geoff Remocker

生命歯学部本館の銅像前で記念撮影

交換学生25回目を記念して楯を贈呈

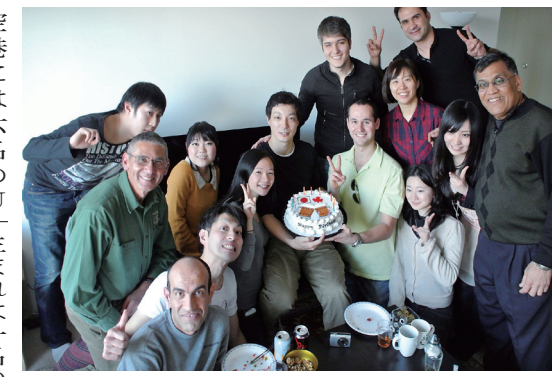
はいポーズ！これから新潟の民謡流しに

Noris先生の診療オフィスを見学する

バンクーバー海岸、対岸にUBCを臨む

ワシントン大学Berg歯学部長を表敬訪問

UBC医学部と歯学部の基礎合同講義


特製ケーキでNDU学生の誕生日を祝う

新潟で小倉歯学部長と歓談するUBC一行

ウィスラーの冬季五輪モニュメントで

誕生パーティーの特製アイスクリームケーキ